

茨城大学教育学部

齋藤研究室

■研究テーマ

●プロダクト・建築・インテリアのユニバーサルデザインに関する研究

■キーワード

ユニバーサルデザイン、生活支援、介護支援

■産業界の相談に対応できる技術分野

プロダクト、建築、インテリア、福祉機器、福祉用具



齋藤芳徳 教授

連絡先
茨城大学教育学部 齋藤芳徳 TEL:029-228-8316 FAX:029-228-8316 e-mail: saiyoshi@mx.ibaraki.ac.jp
茨城大学産学官連携イノベーション創成機構 TEL:0294-38-5005 FAX:0294-38-5240 e-mail: ccrd-iu@mx.ibaraki.ac.jp

研究概要

障がいの有無、あらゆる体格、年齢、性別にかかわらず、できる限り最大限、全ての人が利用できるプロダクト・建築・インテリア



ユニバーサルデザインには、以下の7つの基本原則が定義されています¹⁾。

- ①どんな人でも公平に使えること
- ②使う上で自由度が高いこと
- ③使い方が簡単で、すぐに分かること
- ④必要な情報がすぐに分かること
- ⑤うっかりミスが危険につながらないこと
- ⑥身体への負担がかかりづいこと
- ⑦接近や利用するための十分な大きさや空間を確保すること

齋藤研究室では、プロダクト・建築・インテリア分野におけるユニバーサルデザインを



図1 いすのユニバーサルデザイン



図2 日本人高齢者のための車いす

PDCA サイクル(plan-do-check-act)で検証とデザインを繰り返し、その完成度を高める実践的研究を行っています。主な事例は、以下のとおりです。

1) いすのユニバーサルデザイン

いすや座いすが車いすに変化します。駆動ユニットを外せば、いすや座いすとして再利用できます(図1)。検証を繰り返した結果、要介護状態が重度になると、車いすを利用者の体に合わせて調整できないと自立度を阻害すること、日本人女性高齢者に適した車いすがないこと、等が解り、日本人高齢者のための低座面車いすの開発・普及に繋がりました(図2)。また、研究成果の一部は、『『身体拘束ゼロへの手引き』厚生労働省、2000』などに引用されました。

2) 浴槽のユニバーサルデザイン

健康者から車いす利用者まで、同じ浴槽で入浴できます(図3)。検証を繰り返した結果、

認知症の高齢者には、家庭的な環境が自立度の低下を遅らせること、広すぎる浴室はヒートショックのリスクが高いこと、等が解り、図3の浴槽のユニットバス化に繋がりました(図4)。

3) 住宅のユニバーサルデザイン

外観はモダンなデザインの住宅ですが、伝い歩きや車いすでも使いやすいように配慮されています(図5)。この住宅のオーナーは、要介護状態になっても、できる限りこの家で暮らしたいという希望があり、自身が健康な時から身体能力の低下に配慮した住宅を希望されたので、例えば、廊下の収納棚の天板が手すりとして使えるなど、見た目には高齢者配慮住宅に見えないインテリアになっています。

4) 介護施設のユニバーサルデザイン

ユニットケアの特別養護老人ホームです。家庭的な雰囲気の中で、馴染みの職員と空間で生活します(図6)。この施設では、「図2の車いす」「ユニットケアのインテリア」「職員の関わり」の相乗効果によって、車いす利用者が「介助型車いす→自操型車いす→いす」への生活に変化した事例などがみられ、利用者の自立度向上にプロダクト・インテリア・職員が寄与しているという調査結果が得られました。

特徴と強み

プロダクト・建築・インテリアを検証作業を通して、問題点を洗い出し、デザインの完成度を高めていく実践的な研究スタイルが特徴です。

また、デザイン力の維持・向上を測る手段として、学生とともにデザインコンペなどに参加して、以下の成果を挙げています。

- 第1回アダルファニチャーデザインコンペ/アダル奨励賞, 1988
- 住まいのインテリアコーディネートコンテスト/インテリア産業協会長賞〔一般の部〕, 1988
- 第1回札幌国際デザイン賞/佳作, 1992
- かわさき産業デザインコンペ/入賞・佳作, 2005
- 第7回インテリアデザインコンペ/優秀賞, 2010

注1) http://www.design.ncsu.edu/cud/unv_design/



図3 浴槽のユニバーサルデザイン



図4 ユニットバスの介護浴槽

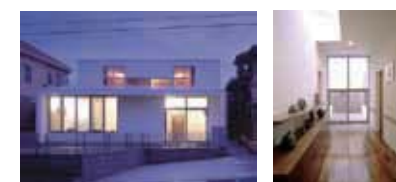


図5 住宅のユニバーサルデザイン



図6 介護施設のユニバーサルデザイン